

【資料】

新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える 影響に関する文献検討

Literature Review of the Effects of COVID-19 on Infants, Toddlers and Parents

近澤 幸^{1), 2)}, 竹 明美¹⁾, 佐々木綾子¹⁾

Sachi Chikazawa^{1), 2)}, Akemi Take¹⁾, Ayako Sasaki¹⁾

キーワード：新型コロナウイルス感染症，親，乳幼児

Key Words：COVID-19, parents, infants, toddlers

I. はじめに

2019年12月に中国で広がった新型コロナウイルス感染症は、今や全世界に拡大し、パンデミックという世界的流行となった。この、新型コロナウイルス感染症の世界各地での大流行は、これまでの暮らしや人々の社会的なつながりに大きな影響をもたらした。収束時期も予測がつかず、効果的な治療薬もワクチンもいまだ開発されていない今、新型コロナウイルス感染症と共存することが求められている。

感染経路には大きく分けて、接触感染、飛沫感染、空気感染の3つがある。新型コロナウイルス感染症の主な感染対策として、飛沫・接触感染対策が行われている。症状としては、発熱や咽頭痛・鼻汁・咳嗽などの呼吸器症状、全身倦怠感、嘔気・下痢などの消化器症状などが報告されている(岩田, 2020)。新型コロナウイルス感染症は大人の感染者が圧倒的に多い。流行した中国では15歳未満の患者数は全体の約3%である。日本の報告でも同様に小児の患者数は全体の4%である。そして、多くは軽症であり、発熱や咳嗽などの成人でよくみられる症状は、半分程度の小児患者にしかみられないとされている。しかし、最近の中国での患者との接触者の調査では、小児の感染率は成人と変わらないとの報告がある。

そして、小児でも重症例の報告があり、特に乳児でその割合が高いといわれている(Dong, 2020; 齋藤, 2020a; 齋藤, 2020b; 細井他, 2020)。

また、産科においては、免疫寛容状態にある妊産婦と免疫機能が未熟な新生児が対象であるため、感染症を発症しやすい対象があふれている。妊産婦の特性として、胎児を異物とみなし、拒絶しないように免疫機能を低下させて妊娠を維持させているため、感染症に罹患すると重症化しやすいといわれている(金川, 2011)。また、免疫機能が未熟な新生児が新型コロナウイルス感染症に感染するかどうかは、現在十分な情報やデータが報告されていない。新型コロナウイルス感染症が疑われる産婦の分娩では、直接・間接介助者、医師全員がN95マスク、アイシールド、ガウン、手袋、キャップを装着している。さらに、母乳からウイルスが検出されたという報告はないが、授乳時の飛沫・接触感染を避ける目的で人工乳が推奨されている。母児同室も実施されていない。また、妊娠中の教室、分娩時の家族の立ち会い、乳幼児健診も中止となっている場合が多い(柴田, 2020; 武久, 2020; 名西他, 2020; 高城, 2020; 春山他, 2020)。

このように、乳幼児や親を取り巻く状況は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きく変化し

1) 大阪医科大学看護学部, 2) 大阪医科大学大学院看護学研究科博士後期課程

た。そのような中、乳幼児を育児中の親にとっては、育児の負担だけでなく、新型コロナウイルス感染症による生活の変化に伴う負担がかかることとなった。

しかしながら、現在のわが国では新型コロナウイルス感染症という新たな脅威に対して対応することに追われ、乳幼児とその親への影響が整理されていない。インターネットやメディアでは、多くの情報が氾濫している。新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響について明らかにすることは、新型コロナウイルス感染症と共存することが求められている社会における支援のあり方の基礎資料になると考える。よって、文献検討により、わが国における新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響について明らかにすることを目的に本研究に取り組むこととした。

Ⅱ. 研究方法

1. 文献検索の方法

『医学中央雑誌』Web版を用い、「コロナ」「コロナウイルス」「COVID-19」「児」「子」「親」をキーワードとし、2019年から2020年に発表された文献を検索した(2020年10月16日検索)。その結果、416件が該当した。その中で、タイトルおよび抄録から、新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影

響について記載された文献8件を分析対象とした。

また、インターネットの一般的な検索エンジンであるGoogleを用い、「コロナ」「親」「乳児」「幼児」「影響」を検索語として検索した(2020年10月16日検索)。その中で、タイトルから、新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響について記載された報告4件を分析対象とした。

また、わが国と海外では家族背景などが異なっており、本研究ではわが国での影響を整理するため、国内文献を対象とした。

2. 用語の定義

- 1) 乳児:「生後1年未満の児」とした。
- 2) 幼児:「満1歳から小学校就学までの児」とした。
- 3) 新型コロナウイルス感染症:「COVID-19による感染症」とした。

3. 分析方法

新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響について、乳幼児に与える影響、親に与える影響、それぞれに関して文献・報告を分析した。

Ⅲ. 結果

分析した12件の概要について表1と表2に示した。なお、本文中の番号は、表1、2の文献番号とする。

表1 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響に関する研究概要

No	タイトル(発行年月)	著者	新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響
1	コロナ時代の保健活動 ウイルスと共存する社会 の健康づくり COVID-19 (2020.09)	春山 早苗, 他	<ul style="list-style-type: none"> ・健診の中止 ・サロンや子育て支援拠点など中止 ・相談もできず、仲間づくりができない ・乳幼児健診が止まり、3か月児健診なのに月齢が7か月の児が健診した ・そこまで深刻ではないけれどイライラしてしまう、今後のことが不安 ・新生児の全戸訪問事業は行っているが「来てほしくない」と断る事例もあった
2	在宅生活の中で医ケア児 は! 医療的ケア児と保護 者の暮らし 新型コロナ ウイルス感染症が拡がる 中での不安や戸惑い (2020.08)	鹿内 あずさ, 他	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間ほど登園してコロナによる自粛 ・慣らし保育も6月からやり直し ・行事も中止 ・環境に慣れることができず落ち着かない ・子どもとずっと家にいることでストレスになる ・生活リズムも崩れてしまい、常に身体がだるい ・子どもたちも、身体を使って遊ぶことが少なく体力を持て余している様子で、寝つきが悪かったり、夜中に目を覚ましたりと不安定 ・保育園の入園という環境が変わるタイミングだったため、先が見えない状況で、より不安が増した ・保育園に入園させるために頑張って就職したものの、職場もコロナの影響で安定せず、解雇さ

No	タイトル (発行年月)	著者	新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響
			れるかもしれないという不安がある <ul style="list-style-type: none"> 今のところ、まだギリギリ解雇はされていないものの、コロナが落ち着くまで休みの予定となっている
3	支援が必要な子どもを地域で「見守る」とは 新型コロナウイルス感染症の状況下での実践現場の取り組みをとおして (2020.07)	久保 樹里	<ul style="list-style-type: none"> 経済面の不安 食事の負担 子どもがずっと家にいることのストレス ネグレクト傾向とされていた家庭に訪問してみると保護者が家において、子どもと一緒にお菓子を作っていた コロナウイルスに対しての不安 子どもがずっと家にいることで、きょうだいげんかが絶えない 3食作ることの負担
4	【社会不安のなかで子どもを支える】これからの学校・家庭における新型コロナウイルス感染症予防 (2020.07)	安元 佐和	<ul style="list-style-type: none"> 基本的感染予防策 まめに手洗い・手指消毒をする, 咳エチケットの徹底, こまめに換気をする, 身体的距離の確保, 3密 (密閉・密集・密接) を回避する, 毎朝の体温測定・健康チェックを行う 教室内の机の配置の間隔をあける 広い多目的ホールなどをシートや衝立で仕切り教室として利用する 保育者の基本的な感染予防 おもちゃや環境の消毒が必要 排便後のおむつの処理には使い捨て手袋の使用 使用後のおむつの処理と調乳や食べ物を扱う場所との動線を分ける 保育者の手洗いの徹底
5	【社会不安のなかで子どもを支える】公衆衛生学・予防医学の観点からのポストコロナ (2020.07)	馬場園 明	<ul style="list-style-type: none"> 勤務している事業所が休業し, 経済的に厳しい状況に追い込まれた もともと貧困世帯が多かった母子家庭はより経済的に厳しい状況に追い込まれている 新型コロナウイルス感染症の影響で事業がうまくいかなかった 子どもの休校でストレスがたまり, 夫が家族に暴力をふるうようになった
6	【社会不安のなかで子どもを支える】新型コロナ・パンデミックに関連するメンタルヘルスの課題 (2020.07)	黒木 俊秀	<ul style="list-style-type: none"> 不安や緊張, 焦燥感, 落ち着きのなさ, 集中困難, 疲れやすい 幼児退行がしばしばみられる 中には反応性に妄想性障害を呈するものもいる
7	【コロナウイルス時代のカウンセリング1.0】新型コロナウイルス (COVID-19)・パンデミックは我々のメンタルヘルスの状態を悪化させているのか? (2020.07)	末木 新, 他	<ul style="list-style-type: none"> 仕事は在宅勤務になった 子どもは学校に行かない (幼稚園や保育園にも行けない) 子どもの面倒を見ながら自宅で仕事をこなさなくてはならない 高まるストレスは, 家庭内での不和や暴力を引き起こす
8	そだちとそだての道しるべ 非常事態の中で, 子どもたちをいかに守るか (2020.07)	笠原 麻里	<ul style="list-style-type: none"> 子どものみならず親も在宅する時間が増えた家庭では, 調理する機会が増えている 「食べられない」子どももいる 子どもも大人も休みはたくさんとれる 狭い住居に多くの家族が長時間一緒にいることはストレスである 就学前や小学生までの子どもの場合, きょうだいで楽しく遊ぶかもしれないが, 喧嘩も増える 年代を問わず, 多くの子どもがゲームばかりしているようになる 子どもたちは運動不足になる 近隣にうるさがられるとか, 集合住宅ともなれば階下への迷惑になるからと, 叱られてしまうこともしばしばある

表2 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響に関するインターネット報告概要

No	タイトル (公開年)	報告者	新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響
9	新型コロナウイルスの影響による子どもとの向き合い方の変化 (2020)	幼児教室コベル	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを遊ばせる場所がない ・おむつや除菌シート、トイレトペーパーなどが手に入らない ・子どものストレス面が心配 ・子どもとの時間が長くなり、心に余裕が持てなくなった ・食事の用意が難しい ・家事がなかなか進まない ・自分の仕事が手につかない ・食事や衛生面に気を遣うようになった ・家族と過ごす時間が増えた ・コミュニケーションが増えた ・喧嘩が増えた ・夫が在宅勤務になったことで、家事に協力的になった
10	家で過ごすこどもたちの心のケア 新型コロナウイルスによる影響 (幼児/小学校低学年) (2020)	ベネッセ教育総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・外に出られない ・友達に会いたい ・親がイライラしている
11	幼児・小学生の生活に対する新型コロナウイルス感染症の影響調査—2020年5月実施— (2020)	ベネッセ教育総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の約8割は新型コロナ流行前より「人とのつながり」「家族との時間」を大切にしたいと思うようになった ・コロナ禍の悩みや気がかりとして、母親の約2～3割が (園や地域と)「つながりをもてない」と感じている ・母親の約7割は子育てに楽しさと不安の両面を感じていた
12	わが国に暮らす子ども達への影響 (2020)	笠原 麻里, 他	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いに加え、熱があったら登校しない、外に出ない、他の子と遊べないなどは、心理的に窮屈さを増す ・「コロナ」とあだ名をつけるなどのいじめ、いじめられるかもしれないからと熱があっても内緒にすることなどが起こりやすい ・狭い室内で、家族が密集して過ごすことになり、外に出ることもままならない ・外へ出かけたがる、喧嘩が増える、ゲームばかりしてだらだらしている、退行するなどさまざまな行動で表現をする ・子どもは、家庭の中で大人がイライラしていたり、不安や抑うつ的になったりしていることにも敏感なため、自分はそのこにはいけないのではないかなどと感じ、さらに落ち着かなくなり乱暴になる ・子どもといる時間が増えることで「子どものことがよくわかるようになった」と感じている親もいる

1. 新型コロナウイルス感染症が乳幼児に与える影響

新型コロナウイルス感染症が乳幼児に与える影響としては、感染予防策、日常生活、友達との関係、家族との関係、メンタルヘルスがあった。

1) 感染予防策

基本的感染予防策として、まめに手洗い・手指

消毒をする、咳エチケットの徹底、こまめに換気をする、身体的距離の確保、3密 (密閉・密集・密接) を回避する、毎朝の体温測定・健康チェックを行う、という対策がとられていた。園での集団生活では、これらの基本的感染予防策とともに、教室内の机の配置の間隔をあける、広い多目的ホールなど

をシートや衝立で仕切り、教室として利用するなど工夫がなされていた。また、乳幼児を保育し、身体的接触が多い場合は、保育者の基本的な感染予防と、おもちゃや環境の消毒が実施されていた。排便後のおむつの処理には使い捨て手袋の使用、使用後のおむつの処理と調乳や食べ物を扱う場所との動線を分ける、保育者の手洗いの徹底などが実施されていた(No.4)(安元, 2020)。

新型コロナウイルス感染予防対策として、手洗いに加え、熱があったら登校しない、外に出ない、他の子と遊べないなどは、乳幼児にとって心理的に窮屈さを増すものとなっていた(No.12)(笠原他, 2020)。

2) 日常生活

子どものみならず親も在宅する時間が増えた家庭では、調理する機会が増えているが、経済的問題、大人の生活時間帯のずれ、親や子どもの身体的・精神的疾病などが複雑に関与し、「食べられない」子どももいるとされていた(No.8)(笠原, 2020)。

また、子どもたちは運動不足になり、近隣にうるさがられる、集合住宅ともなれば階下への迷惑になると叱られる状況もみられた(No.8)(笠原, 2020)。身体を使って遊ぶことが少なく体力を持て余している様子で、寝つきが悪かったり、夜中に目を覚ましたり不安定になる医療的ケア児の事例もあった(No.2)(鹿内他, 2020)。そして、年代を問わず、多くの子どもがゲームばかりしているようになっていた(No.8)(笠原, 2020)。

さらに、乳幼児健診が中止となり、3か月児健診であるが7か月の児が受診することがあった(No.1)(春山, 2020)。

3) 友達との関係

子ども間のスティグマとして、「コロナ」とあだ名をつけるなどのいじめ、いじめられるかもしれないからと熱があっても内緒にすることなどが起こりやすいとされていた(No.12)(笠原他, 2020)。

また、友達となかなか会えないことは、子どもたちにとって大きなストレスになり、友達に会いたいと思っている子どもがいた(No.10)(ベネッセ教育総合研究所, 2020)。

4) 家族との関係

休みはたくさんとれたが、狭い住居に多くの家族が長時間一緒にいることはストレスとなっていた。就学前や小学生までの子どもの場合、きょうだいで楽しく遊ぶようになっていた。しかし、それと同時に、喧嘩も増えていた(No.8)(笠原, 2020)。また、子どもがずっと家にいることで、きょうだいげんかが絶えない状況となっていた(No.3)(久保樹里, 2020)。

5) メンタルヘルス

小児の場合は、幼児退行がしばしばみられた。中には反応性に妄想性障害を呈するものもいた(No.6)(黒木, 2020)。また、環境に慣れることができず落ち着かない様子を示す事例もあった。そして、子どもは、家庭の中で大人がイライラしていたり、不安や抑うつ的になったりしていることにも敏感なため、自分はそのこにはいけないのではないかなどと感じ、さらに落ち着かなくなり乱暴になると報告されていた(No.12)(笠原他, 2020)。

2. 新型コロナウイルス感染症が親に与える影響

新型コロナウイルス感染症が親に与える影響としては、他者とのつながり、経済状況、家族との関係、メンタルヘルスがあった。

1) 他者とのつながり

保健センターや病院のパパママ教室がすべて止まり、里帰り出産もできなくなった中で、妊婦が相談する場がなくなっていた。妊婦だけでなく、子育て家庭の親も、サロンや子育て支援拠点などもすべて中止され、相談もできず、仲間づくりもできない状況が生じていた。新生児の全戸訪問事業は行っているが「来てほしくない」と断る事例もあった(No.1)(春山, 2020)。

一方、人とのつながりを大切にしたいと答えた母親は82.7%であり、コロナ禍の悩みや気がかりの調査では、母親の約2~3割が(園や地域と)「つながりをもてない」を選択した(No.11)(ベネッセ教育総合研究所, 2020)。

2) 経済状況

経済面の不安を述べる親がいた(No.3)(久保樹里, 2020)。また、新型コロナウイルス感染症の拡

大で緊急事態宣言が発出されたことにより、勤務している事業所が休業し、経済的に厳しい状況に追い込まれた人が多くいた。そして、貧困世帯が多かった母子家庭はより経済的に厳しい状況に追い込まれていた (No.5) (馬場園, 2020)。

医療的ケア児の保護者で、保育園に入園させるために頑張って就職したものの、職場もコロナの影響で安定せず、解雇されるかもしれないという不安を抱き、今のところ解雇はされていないものの、休みの予定となっている事例があった (No.2) (鹿内他, 2020)。

3) 家族との関係

新型コロナウイルス感染症の影響として、「子どもを遊ばせる場所がない」「子どものストレス面が心配」「食事や衛生面に気を遣うようになった」「家族と過ごす時間が増えた」「コミュニケーションが増えた」「喧嘩が増えた」「夫が在宅勤務になったことで、家事に協力的になった」などの回答があった (No.9) (幼児教室コベル, 2020)。

家族との時間を大切にしたいと83.0%の母親が答えており、母親の約7割は子育てに楽しさと不安の両面を感じていた (No.11) (ベネッセ教育総合研究所, 2020)。

外出ができず、仕事が在宅勤務になり、子どもは学校に行かない状況の中で、子どもも大人も休みはたくさんとれるが、狭い住居に多くの家族が長時間一緒にいることはストレスとなっていた (No.8) (笠原, 2020)。また、「子どもの休校でストレスがたまり、夫が家族に暴力をふるうようになった」という相談も報告されていた (No.5) (馬場園, 2020)。そして、子どもの面倒をみながら自宅で仕事をこなさなくてはならず、高まるストレスは、家庭内での不和や暴力を引き起こすと述べられていた (No.7) (末木他, 2020)。

経済面の不安、食事の負担、子どもがずっと家にいることのストレスを語る親が多く、コロナウイルスに対しての不安に加え、子どもがずっと家にいることで、きょうだいげんかが絶えないことや3食作ることの負担などさまざまな悩みを抱えていた (No.3) (久保樹里, 2020)。

一方、ネグレクト傾向とされていた家庭に訪問してみると保護者が家において、子どもと一緒にお菓子を作っていたこともあった (No.3) (久保樹里, 2020)。また、子どもといる時間が増えることで、「子どものことがよくわかるようになった」と感じている親もいた (No.12) (笠原他, 2020)。

4) メンタルヘルス

そこまで深刻ではないけれどイライラしてしまう、今後のことが不安、などの相談が増えていた (No.1) (春山, 2020)。生活リズムも崩れてしまい、常に身体がだるい状態であり、保育園の入園という環境が変わるタイミングだったため、先がみえない状況で、より不安が増した医療的ケア児の保護者の事例があった (No.2) (鹿内他, 2020)。

IV. 考察

1. 新型コロナウイルス感染症が乳幼児に与える影響

新型コロナウイルス感染症が乳幼児に与える影響としては、感染予防策、日常生活、友達との関係、家族との関係、メンタルヘルスがかった。

新型コロナウイルス感染症の主な感染対策として、飛沫・接触感染対策が行われている。感染対策としては、咳エチケット、せっけんを用いた手洗い、手指消毒などがある。外出の際にはマスクを装着し、店に入る際には手指消毒をするという風景が当たり前になっている。安元 (2020) の報告では、基本的感染予防策とともに、環境の調整が行われていた。新型コロナウイルス感染症は、乳幼児にとっても周囲の大人にとっても新たな経験であり、感染予防策も手探りである。その中で、「感染症対策下における子どもの安心・安全を高めるために」というリーフレットによって、安全な環境づくりや不安の軽減について情報提供がされている (池田, 2020)。徹底した感染予防策が重要ではあるが、乳幼児にとって、必要性や目的、方法などの理解が困難であり、環境の変化は影響が大きいと考えられる。

また、咳エチケットの方法としてマスクがある。しかし、乳児の呼吸器の空気の流れは狭く、マスクは呼吸をしにくくさせ、呼吸や心臓への負担になる、マスクそのものや嘔吐物による窒息のリスクが

高まる、マスクによって熱がこもり熱中症のリスクが高まる、顔色や口唇色・表情の変化など体調異変への気づきが遅れる、など乳児に対する影響が報告されている(日本小児科学会, 2020)。一律にマスクの装着を促すのではなく、年齢や状況を考慮した感染予防策を検討し、周知することが必要と考える。

一方、感染予防策は新型コロナウイルス感染症だけに効果を発揮するものではない。食中毒や感冒、インフルエンザなど乳児が罹患する多くの感染症を感染予防策の徹底によって予防することができる。新型コロナウイルス感染症への対策が、乳児の健康の維持につながることも期待できる。

乳児の発達の特徴として、乳児は、外界への急激な環境の変化に対応し、著しい心身の発達とともに、生活のリズムの形成を始める。そして、幼児期になるにつれ、身近な人や周囲の物、自然などの環境とかかわりを深め、興味・関心の対象を広げ、認識力や社会性を発達させていくとともに、食事や排泄、睡眠といった基本的な生活習慣を獲得していく(清水, 2020)。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、食事や運動、休息など乳児の日常生活は大きく変化した。この変化は、乳幼児期の生活習慣の獲得やそれに伴う発達にも影響を及ぼしうるのであると考える。現在の混乱した状況であっても、乳児がリズムの整った日常生活を送ることができるよう調整することが必要と考える。

また、乳幼児健診が中止となり、受診の時期が遅れる場合があった。1歳6か月健診は、運動機能、視聴覚障害、栄養、歯科、精神発達の遅滞などの心身障害の早期発見および生活習慣の自立、う歯予防のために実施される。また、3歳児健診は、発育・発達、栄養、疾病の有無、歯科、精神発達、食欲不振および諸種習癖、予防接種実施状況、各種心身障害の早期発見のために実施されるものである。この1歳6か月健診、3歳児健診は母子保健法第12条で規定されたものであり、他にも母子保健法第13条に基づいて、疾病異常の早期発見および健康な発育・発達の促進を目的として3か月健診などの乳児健診が行われている。問題が生じやすい時期や、発達について機能が獲得できる時期などに応じて受診時期

は設定されており、遅れることで異常の早期発見が妨げられる。時間設定を決めて多くの乳幼児が同じ時間に集わないようにするなど、感染予防策を徹底したうえで、滞りなく乳幼児健診が実施されることが重要と考える。

小学生や中学生の一斉休校の期間には、「授業がないので勉強が遅れるのではないか」「自分がコロナに感染するのではないか」と思い、外に出るのが怖い」「休校期間中に出された宿題が多くてできそうにない」などの相談が挙がっている。また、「感染を気にして子どもが手を脅迫的に何度も洗う」「イライラして怒りっぽくなった」との報告がある(本田, 2020)。乳幼児の場合は、学業への影響は学童期の子どもよりは少ないことが予測される。しかし、乳児にとっての他者とのかかわりは、家族だけではなく友達とのかかわりが大きな意味をもつ。友達とのかかわりを通して、興味・関心の対象が広がり、社会性が発達する。新型コロナウイルス感染症による外出制限で、乳幼児は家族以外とかかわる機会が減少した。外に出ない、他の子と遊べないなどは、学童期同様、幼児にとってストレスとなり、乳児の発達にも影響すると考える。

家族との関係は、新型コロナウイルス感染症の拡大前と比べて、密なものとなっていると考えられる。乳児が親や、きょうだいなどと接する時間が増えたことは、喧嘩が増えたりストレスとなるという面と同時に、愛情を得られる機会が増えるという面もある。家族としての機能が有効に働いているかどうか、乳幼児と家族の関係に影響を与えていると考える。

重村他(2020)によると、パンデミックにおけるメンタルヘルス上の高リスク集団として妊婦や小児などが挙げられる。感染予防策、日常生活、友達との関係、家族との関係などの変化は、乳児のメンタルヘルスに大きく影響を与えていると考える。乳児のメンタルの変化は、乳児自身の言葉で述べられるものではなく、寝なくなる、食べなくなる、乱暴になる、落ち着かない、などで表現されることが多い。乳児の変化に大人が気づき、対応することが必要と考える。

2. 新型コロナウイルス感染症が親に与える影響

新型コロナウイルス感染症が親に与える影響としては、他者とのつながり、経済状況、家族との関係、メンタルヘルスがかった。

子育ては、親が家庭の中だけで行うものではなく、専門職や親同士など他者とのつながりの中で行うことで、その負担が軽減するといえる。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で外出が制限され、親は孤立化している。ベネッセ教育総合研究所の調査(2020)にもあるように、人とのつながりを大切にしたいと答えた母親は82.7%であり、コロナ禍の悩みや気がかりの調査では、母親の約2~3割が(園や地域と)「つながりをもてない」を選択していた。鷺山(2020)は、「医療職など新型コロナウイルス感染症のもとでも労働を継続すべき親の子どもだけが登園すべきと理解される部分もあり、要支援家庭の親と子どもが家庭の中で孤立するに至ってしまった」と述べている。他者とのつながりが減少することで、不安が大きくなったり、悩みが解消されなかったりする親が多く存在する考える。虐待の発生には社会的要因が関与している。リスクを抱えた家族が、新型コロナウイルス感染症の問題で自宅に孤立し、本来必要な地域資源を利用できず、援助関係形成も困難になっていく社会状況のもとでは、虐待が生じる可能性が高まるといえる。

また、休業要請に伴う職場の休業、経営不振による減給などにより、経済状況が悪化した親がいる。さらに、子どもを預ける場所がなく、仕事を休んだり、祖父母に預けたり、ベビーシッターを雇ったりと、親はさまざまな対応をとっている。人的資源を確保するために費用が必要となり、さらに経済状況を悪化させる要因になっているといえる。経済状況の悪化などで保護者のストレスが強いと、虐待などが発生するリスクが増すと推察される。

本田(2020)によると、小学生・中学生の親からは「イライラして怒りっぽくなった」「子どもだけでなく保護者も在宅勤務になり、全員が家にずっと一緒にいるため、家族同士の喧嘩が増えた」という相談があった。乳幼児の家庭であっても、家の中で家族と一緒に過ごす時間が長くなったことがストレ

スとなり、親も子どもも苛立ち、家族同士の喧嘩が増えると考えられる。喧嘩によって結びつきが強くなる場合も考えられるが、さらなる苛立ちやストレス、家族機能の破綻につながる可能性も考えられる。一方で、子どもと一緒にいる時間が長くなることで子どもの理解が深まったり、愛着形成が促進されたりすることも考えられる。武者(2020)は、3食食事を作らなくてはならず、とても大変などの訴えが親からあったと述べており、親や乳幼児が家庭で過ごす中で、それぞれの役割を果たし、協力することでストレスが軽減し、家族との結びつきが強くなる考える。前田他(2020)による乳幼児をもつ母親の育児ストレスの要因に関する文献検討では、育児ストレスは、子どもをもつことでの生活・意識の変化に伴うことや、生活環境がストレス要因となっていたことが明らかになっている。そして、子どもをもつことでの生活・意識の変化として自分の時間が子どもによって制約され、社会から取り残されてしまう焦りや不安が育児ストレスの要因になることや、母親は就労によって一定の時間育児から離れることができ、また仕事によって社会とつながることにより孤立感をあまり感じにくいため、子ども自身に対する育児ストレスはあまり強くなかったと述べている。現在、学童期の親が調査の対象となっており、今後、乳幼児の親を対象とした調査を行うことが必要と考える。

親は、ストレスや苛立ちを抱えていた。女性は、ホルモンの影響などでストレスを受けやすいといわれているが、新型コロナウイルス感染症による、女性のメンタルヘルスへの影響は明らかになっていない(久保正子他, 2020)。女性だけでなく、男性にとっても、これまで出勤していた生活から在宅で勤務するという生活に変化したことや、家族と過ごす時間が増えたことなどは、メンタルヘルスに影響を与える要因となっていると考えられる。

3. 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響

新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響には、他者とのつながり、友達との関係、家族との関係、メンタルヘルスなどがかった。化学・

生物・放射線物質・核・高性能爆発物による災害は CBRNE 災害と呼ばれる。新型コロナウイルス感染症のパンデミックも、CBRNE 災害に準じて扱われることがある。この CBRNE 災害は、健康・行動・社会・経済に影響するとされている (重村他, 2020)。乳幼児、親ともに影響を受けており、その影響は、互いにさらなる影響を与えると考える。新型コロナウイルス感染症のように、健康への影響が不明瞭であり、今後の予測が困難なもの、専門的知識を有するものについては、政府や科学者の意見が分かれがちである。そして、情報が氾濫し、情報の混乱が噂、デマなどにつながるとされている (重村他, 2020)。そのような状況の中で、乳幼児と親は孤立化し、ストレスを抱えていると推察される。しかし、家族関係を見直すきっかけとなる場合もある。

感染状況は収束しておらず、長期化することでさらなる影響を与えることが予測される。新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響についての報告件数はまだ少なく、さらなる研究が求められる。影響を明らかにすることで、医療職としての今後の支援の在り方を検討することが必要と考える。

V. 結論

新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響について明らかにすることを目的に文献検討を行った。それにより、以下のことが明らかになった。

1. 新型コロナウイルス感染症が乳幼児に与える影響としては、感染予防策、日常生活、友達との関係、家族との関係、メンタルヘルスがあった。
2. 新型コロナウイルス感染症が親に与える影響としては、他者とのつながり、経済状況、家族との関係、メンタルヘルスがあった。
3. 新型コロナウイルス感染症の影響で、乳幼児、親ともにストレスを抱えており、他者とのつながりが失われ孤立化する家庭があった。
4. 家族で過ごす時間が増え、家族関係を見直すきっかけとなった家庭もあった。
5. 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響についての報告件数はまだ少なく、さらなる研究によって影響を明らかにすることで、

医療職としての今後の支援の在り方を検討することが必要である。

利益相反

本研究による利益相反は存在しない。

文献

- 馬場園明 (2020) :【社会不安のなかで子どもを支える】公衆衛生学・予防医学の観点からのポストコロナ, 教育と医学, 68(4), 304-308.
- ベネッセ教育総合研究所 (2020) :家で過ごす子どもたちの心のケア 新型コロナウイルスによる影響 (幼児/小学校低学年), <https://benesse.jp/kosodate/202006/20200606-2.html> (2020.10.16).
- ベネッセ教育総合研究所 (2020) : 幼児・小学生の生活に対する新型コロナウイルス感染症の影響調査 - 2020年5月実施 -, <https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=5520> (2020.10.16).
- Dong Y, Mo X, Hu Y, et al. (2020) : Epidemiology of COVID-19 among children in China Pediatrics, 145(6).
- 春山早苗, 岡本理恵, 石黒美佳子, 他 (2020) : コロナ時代の保健活動 ウイルスと共存する社会の健康づくり COVID-19, 地域保健, 51(5), 42-59.
- 本田秀夫 (2020) : 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) による精神科医療現場の変化 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染拡大に伴う学校の一斉休校は、子どものメンタルヘルスにどのような影響を及ぼしたか?, 精神科治療学, 35(8), 791-795.
- 細井 創, 秋岡親司, 池田和幸, 他 (2020) : 新型コロナウイルス感染症小児診療ガイドライン, 京都府立医科大学雑誌, 129(7), 487-519.
- 池田美樹 (2020) :【新型コロナウイルス感染症への対応】「感染症対策下における子どもの安心・安全を高めるために」について, 日本臨床心理士会雑誌, 29(1), 13-14.
- 岩田 敏 (2020) : 新型コロナウイルス感染症、今知っておきたいこと, 小児科臨床, 73(8), 1105-1114.
- 金川修造 (2011) : 新興感染症, 周産期医学, 41(2), 280-283.
- 笠原麻里 (2020) : そだちとそだての道しるべ 非常事態の中で、子どもたちをいかに守るか, こころの科学, 212, 118-123.
- 笠原麻里, 八木淳子 (2020) : わが国に暮らす子ども達への影響, <https://www.jstss.org/ptsd/covid-19/page04.html> (2020.10.16).

- 久保樹里 (2020) : 支援が必要な子どもを地域で「見守る」とは 新型コロナウイルス感染症の状況下での実践現場の取り組みをとおして, 小児保健研究, 79(4), 290-295.
- 久保正子, 薦田 烈 (2020) : COVID-19の感染拡大により女性のメンタルヘルスに及ぼす影響について, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 19(1), 19-20.
- 黒木俊秀 (2020) : 【社会不安のなかで子どもを支える】新型コロナウイルス・パンデミックに関連するメンタルヘルスの課題, 教育と医学, 68(4), 292-296.
- 武者稚枝子 (2020) : 女性のメンタルヘルス コロナ時代のメンタルヘルス, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 19(1), 1.
- 前田 薫, 中北裕子 (2017) : 乳幼児をもつ母親の育児ストレスの要因に関する文献検討, 三重県立看護大学紀要, 21, 97-108.
- 名西恵子, 日本ラクテーション・コンサルタント協会 (2020) : 「COVID-19流行下での授乳支援についての声明」作成委員会 COVID-19流行下での授乳支援についての声明要約版, 日本母乳哺育学会雑誌, 14(1), 154-159.
- 日本小児科学会 (2020) : 乳幼児のマスク着用の考え方, http://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=117(2020.10.16).
- 齋藤昭彦 (2020) : 子どもと大人の感染症 [第20回] COVID-19全国の学校の一斉閉鎖の目的は?, J-IDEO, 4(4), 600-601.
- 齋藤昭彦 (2020) : 子どもと大人の感染症 [第19回] 新型コロナウイルス感染症 なぜ子どもの患者が少ないのか?, J-IDEO, 4(3), 360-361.
- 柴田綾子 (2020) : 妊産婦に関するCOVID-19関連情報, J-COSMO, 2(2), 241-242.
- 重村 淳, 高橋 晶, 大江美佐里, 他 (2020) : COVID-19(新型コロナウイルス感染症) が及ぼす心理社会的影響の理解に向けて, トラウマティック・ストレス, 18(1), 71-79.
- 鹿内あずさ, 村上優衣, 服部裕子, 他 (2020) : 在宅生活の中で医ケア児は! 医療的ケア児と保護者の暮らし 新型コロナウイルス感染症が拡がる中での不安や戸惑い, 子どもと家族のケア, 15(3), 91-95.
- 清水嘉子 (2020) : 乳幼児の発達と健診, 江藤宏美編, 助産師基礎教育テキスト 2020年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳児期のケア (第1版), 226-228, 株式会社日本看護協会, 東京.
- 末木 新, 上田路子 (2020) : 【コロナウイルス時代のカウンセリング1.0】新型コロナウイルス (COVID-19)・パンデミックは我々のメンタルヘルスの状態を悪化させているのか?, 臨床心理学, 20(4), 484-486.
- 高城大治 (2020) : アメリカにおけるCOVID-19の現状 ミシガン州デトロイトの現場から, 小児科臨床, 73(6), 947-950.
- 武久 徹 (2020) : Obstetric News 新型コロナウイルス感染症と産科 CDCの母乳哺育に関する情報とACOGの医療勧告, 臨床婦人科産科, 74(6), 628-630.
- 鷺山拓男 (2020) : 虐待予防は母子保健から 指導ではなく支援(第9回) 新型コロナウイルス問題下での虐待予防「取り締まり」か「援助」か, 地域保健, 51(5), 70-73.
- 安元佐和 (2020) : 【社会不安のなかで子どもを支える】これからの学校・家庭における新型コロナウイルス感染症予防, 教育と医学, 68(4), 318-323.
- 幼児教室コベル (2020) : 新型コロナウイルスの影響による子どもとの向き合い方の変化, <https://www.sankei.com/economy/news/200427/prl2004270499-n1.html> (2020.10.16).